令和7年度　学校評価書（共通）　前期

校名　宇和島市立津島中学校

1　自己評価書

教育目標	笑顔あふれる生徒の育成
基本方針	校訓「友愛」「清廉」「飛躍」を大切にした学校づくりを行いながら、目指す生徒像・教職員像の育成を図る。また、学校運営協議会を生かした学校運営により、地域と共にある学校づくりを目指す。
本年度重点目標	1　確かな学力の定着と向上　2　生徒会活動の活性化と生徒指導の充実　3　部活動の充実　4　心を育てる教育の推進　5　キャリア教育の推進　6　教職員の資質・能力の向上

評価項目		評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	各調査の分析結果を基に、「身に付けさせたい力（学習の目標）」の明確化を図り、組織的に推進することができた。	・分析資料の作成		後期のみ
				・具体的な対策の実施		
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業モデル「N見方・考え方を変える」を視点に授業改善に努めた。	・教師アンケート	B	A
				・保護者アンケート	A	
				・児童生徒アンケート	A	
			ねらいを明確にした分かる授業を行った。	・教師アンケート	B	B
				・児童生徒アンケート	A	
			一人1台端末（iPad）やEILS（コンテンツバンク等）の活用により、個別最適な学びを推進したり学習内容の定着を図ったりした。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・児童生徒アンケート	A	
	③	家庭学習の充実	家庭との協働により、授業と連動させた家庭学習の充実に努めた。	・教師アンケート	D	C
				・保護者アンケート	C	
				・児童生徒アンケート	A	
	④	読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート	D	D
				・保護者アンケート	D	
				・児童生徒アンケート	D	
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする児童生徒の育成に努めた。	・教師アンケート	C	C
				・保護者アンケート	B	
				・児童生徒アンケート	C	

（成果と課題）
一人1台端末等の活用による分かる授業に重点を置いた学びによって、生徒、保護者共に充実した学習に満足している。しかし、家庭学習と読書活動については、課題解決のための組織的な取組の必要性がある。
ふるさと学習等については、個々の生徒の取組は高いが、学校全体としての広がりのある地域貢献に至っていない。

（改善策等）
各教科が連携した課題の調整、自主学習ノートの活用を推進するとともに、授業と連動させた家庭学習の充実、個に応じた課題の提示に重点を置き、家庭学習の改善を図る。読書活動については、本を手に取る機会を増加させるため、学級文庫の充実やビブリオバトル等を実施し、生徒会活動を工夫する。

評価項目		評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・児童生徒アンケート	A	
	②	児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・児童生徒アンケート	B	
			不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・児童生徒アンケート	B	
			いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速且つ適切な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	B	
				・児童生徒アンケート	A	
	③	関係機関との連携	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・児童生徒アンケート	A	
	④	自己肯定感　等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的に行った（自分にはいいところがある）。	・教師アンケート	B	B
				・児童生徒アンケート	C	
			自己有用感（人の役に立っている）や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート	B	
				・児童生徒アンケート	C	

（成果と課題）
校則検討を含めて、生徒、保護者、学校が一体となって学校生活のルールづくりを行うことにより、規範意識や共通理解が高まっている。また、関係機関の積極的な活用ができており、組織で児童生徒の健全育成に努めることができている。自己肯定感等については、生徒の観察を丁寧に行いながら、個に応じた声掛けが必要であることが分かる。

（改善策等）
学校行事や総合的な学習の時間の中で生徒の活躍の場を設定するとともに、プラスの声掛けを積み上げながら自己肯定感を高める取組を継続する。また、ボランティア活動を双方向に広がる地域貢献活動に発展させ、ボランティア活動後の地域の声を生徒に紹介しながら、自己有用感を高める。

＜評価基準＞　A　目標を達成　B　8割以上達成　C　6割以上達成　D　6割未満

評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス	時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指し、校内で設定した業務改善施策を基に、組織的な働き方改革に努めた。	・教師アンケート	C	C
				・「出勤・退庁調査」の分析と活用	B	
	②	働きやすい環境づくり	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。（枠を移動しました。）	・教師アンケート	B	B
			休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	B	B
	③	他の教職員のサポート体制の充実	教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	・教師アンケート	B	B
	（成果と課題） スクールサポートスタッフや地域人材の活用により、教育活動における教職員の負担が軽減されている。また、学年部を中心とした生徒情報の共有やサポート体制の基盤ができており、温かく働きやすい職場となっている。しかし、学校行事の運営においては、一部の教職員に負担が集中する場合もあり、時間外勤務の増加につながっている。					
	（改善策等） 相談しやすい雰囲気をつくるために、教職員への声掛けを積極的に行いながらコミュニケーションが活発な職場づくりを行う。生徒指導上の諸問題や教育活動の状況を丁寧に把握し、教職員の負担増の実態を早期に解決するためのサポート体制を整える。また、教職員の家庭状況や健康面に配慮するため、必要な休暇を取得しやすい職場づくりを行う。					

評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた（校内体制）。	・教師アンケート	B	B
			学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化（地域・保護者へ）を図り、熟議等の結果を基に、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	B	
				・保護者アンケート	A	
				・地域アンケート	A	
	②	情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・地域アンケート	A	
	③	来校・相談体制	来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談できやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	B	A
				・保護者アンケート	A	
				・地域アンケート	A	
	（成果と課題） 生徒主体の熟議による学校運営協議会の活性化、教育活動の情報発信等について、保護者、地域共に評価が高く、地域連携ができていることが分かる。一方で、教職員への学校運営協議会の役割や目的の周知については、十分とは言えない。校内体制を充実させながら共通理解を図り、教職員と地域が学校や地域の課題を共有していく必要がある。					
	（改善策等） 家庭や地域への情報発信を継続するとともに、行事変更やアンケート結果の報告等についても迅速かつ丁寧に行いながら、保護者や地域との信頼関係を更に高める。また、学校運営協議会の役割や目的等に関する校内研修を行うとともに、学校運営協議会の方向性や意見を教職員で共有しながら校内体制を整える。					

＜評価基準＞　A 目標を達成　B 8割以上達成　C 6割以上達成　D 6割未満